

よく晴れた日だったが
僕は心に傘が必要だった。



平成23年度第3回大分県青少年健全育成審議会傍聴レポート
& 個人的感想文

by 切身魚/Kirimisakana

事前許諾条項

この文書は、CC-BY-NC-SAにより、改変・引用・転載・再配布を事前許諾します。
詳細はリンク先をご覧ください。

尚、同人誌は有償であっても、一ヶ月あたり収益が8000円（私の一ヶ月の食費相当）
以下なら非営利利用とみなします。

絵/同人誌/Twitterまとめ他のブログはこちら。 <http://nekomimi.staba.jp/blog/>

よく晴れた日だったが
僕は心に傘が必要だった。



平成23年度第3回大分県青少年健全育成審議会傍聴レポート
&個人的感想文
by 切身魚/Kirimisakana

事前許諾条項

この文書は、CC-BY-NC-SAにより、改変・引用・転載・再配布を事前許諾します。
詳細はリンク先をご覧ください。

尚、同人誌は有償であっても、一ヶ月あたり収益が8000円（私の一ヶ月の食費相当）
以下なら非営利利用とみなします。

絵/同人誌/Twitterまとめ他のブログはこちら。 <http://nekomimi.staba.jp/blog/>

*copyright information

This document is under Creative Commons license, CC-BY-NC(<http://creativecommons.org/licenses/by-nc/3.0/>). In my definition, “noncommercial “ means “you can’t make money over 9,000 yen monthly from your activity. Under 8,999yen, it is noncommercial. I can’t make such amount of money from my activity.”

日本語版著作権条項

【このドキュメントの著作権情報】 [CC-BY-NC](#) 切身魚/Kirimisakana 改変・引用・転載・再配布を事前許諾します。詳細はリンク先をご覧ください。

尚、同人誌は有償であっても、一ヶ月あたり収益が9000円（私の一ヶ月の食費相当）以下なら非営利利用とみなします。

2011年11月20日 私の定義：非営利とは、一ヶ月あたり9000円以上にならない範囲でならお金を得る『有償』でも良いです。私はそんな大金、この活動で稼げてませんが。

絵/同人誌 /Twitterまとめ他のブログはこちら。 <http://nekomimi.staba.jp/blog/>

【前書き】

時 平成23年11月22日火曜日13時30分より15時30分

場所 大分県庁別館

主催 大分県生活環境部 私学振興・青少年課

傍聴 切身魚/Kirimisakana（一名）

【このレポートの読み方】

筆者は速記者ではありません。また、非常に早口でしゃべった部分や、いわゆる『官僚語』
例：～であると思われま。～検討してゆきたいと考えております。体言止で旗幟不鮮明だったりする
言い方のこと。

.....の語尾部分はあまりフォローしておりません。

また、感想や意見は可能な限り、後半の【切身魚の感想】部分にまとめ、レポートは書き留めた言葉
にのみ徹するようにしました。

お読みになる皆様方も、どうぞ感情がたぎる部分はいったん脇においてください。

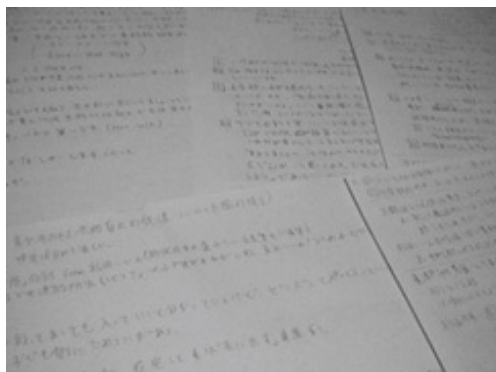
「講演会や審議会などでは、招かれたタテマエ上偉そうなことを言わないといけないシーンもある」
と解った上で、仰っている言葉もあるのではないのでしょうか。

『地方小都市の審議会ってこういうもの』

を、まずはできるだけ平常心でご覧ください。

不正確な部分や、情報不足な部分がありますことは予めお詫び申し上げます。

協議、各課からの報告連絡



前に傍聴した第一回より広い会議室。傍聴席は3座席で、傍聴者は私一人でしたので座ることが出来ました。上画像のように、A4の紙と筆記用具持参でレポートに徹します。

協議、各課からの報告連絡。中心は『大分県青少年健全育成基本計画』中間見直しについて。

第2回聞き書きによる事後レポートのように、第2回大分県青少年健全育成審議会では『大分県青少年健全育成基本計画』中間見直しの案を募ったとのこと。

今回は『平成23年度大分県青少年対策本部幹事会』もかねるため、県警察本部から、少年課や交通規格化、生活安全課、といった関連部署の方々がいらしてました。

県庁からは、土木建築企画課、農林水産企画課、商工労働企画課、子ども子育て支援課、行政企画課といった部署の方も。

あいさつは、私学振興課の方が。

「全国的には殺人強盗、虐待等依然として厳しい状況もある。インターネット社会における有害情報の氾濫、21年度の再犯率。少年犯については3割を上回る。悪いことを思いとどまらせるのは誰か、というアンケート結果にまず「父・母・家族」

ということで、地域・家庭教育の強化を目指したい・・・という概要でお話になってました。

東九州短期大学 特任教授（?聞き取れず）のマツダ会長。先般大分県で行った講演を例にお話。

・大分県の特性をを持った青少年育成や、生徒会を通じて3.11東日本の震災支援を行っているという事例を高く評価。

・ケータイ、スマホを上手く、健全に使いこなすリテラシー教育の大事さを感じる。地域全体、地球規模でのボーダーレス、の健全育成を図っていくべきかと感じた。これからの大分の青少年健全育成に期待するところ大です。

・情報を使うな、禁止だけでなく、上手につきあっていくのはどうしたら良いか。大学生との付き合いを通して、考えています。皆様のご意見も是非いただきたい。

この挨拶のあと、19名中13名参加にて審議会の開催を宣言。今回も、書籍販売組合の方いらっしゃってない様子。

11/4の第2回 意見の補足説明

11/4の第2回で、審議会委員からでた意見の結果が、委員及び役所関係者用資料には掲載されていました。この資料の抜粋や補足説明が、私学振興課より行われました。

1.オノさんのQに対し。子ども、ニート、引きこもりにプラスして、障害や虐待、定住外国人も併記されている件。

A:振興課の範疇外なので、障害の字は消しました。ただ、国策の支援対象に含まれているため、文字を使ったもの。国策を勘案しつつ作成する中間見直しプランなので、文言を入れました。

2.困難を有する青少年、の文言取り扱いについても同様です。

3.発達障害に対する支援への、具体的な団体名が無いよ？というQに対し、

A:行政全体が包括的に取り組むことなので、特定の団体名を記載するのは逆に不相当であると判断。

4.子どもの貧困という表現-ニート、引きこもりについて。『価値観の多様化』よりも、『経済の悪化』が原因であると分析したため。

5.子どもの悩みに対して、適切かつ迅速に対応する。（という文言について、説明が早くて聞き取れず）

6.小学校のインターネット利用、ケータイに対する問題 -（審議会委員からの）文言盛り込み希望を入れて記載しました。

オオカジ委員（別府の自治会系安全パトロールボランティア経験豊富な女性委員）より

「この資料に用いられている、コンクールの子どもの絵。H17版を使い続けるんですか？」

A:新しく最終的には、何らかの活動時の写真や、親子川柳を用いる予定。絵画・写真コンクールは、大分県としてはH21で終了のため、今のところH17を使っています。

マツダ会長よりフォロー「新しい資料には、新しい図版用いて新しくする。青少年健全育成を訴えられるものを」

A:市町村レベルでは宇佐市などでのコンクールがまだ開催されていますので、貰ってくることを検討したい。

基本計画の取りまとめ

この後、基本計画の取りまとめ。私学振興課より、A3資料の説明。

項目が現行の5項目から6項目に増えたとのこと（この部分の資料は、後日大分県のサイトにリンクする予定です）。

マツダ会長「不登校、ひきこもりについて。資料内に文章はあるが、他の会議や審議会の経験からいうと、実際の現場ではどうなのか？学校にサポーターが入る、とか、警察OBが学校に入るとか経験から事例を知っているが、これらの案ではそういう（具体案が）見えてこない。各課より具体的取組をお聞きしたいのですが？」

私学振興課「青少年自立支援センターを大分市、中津市に設けている。一日8時間の相談受付。平成23年度からは、4保健所にてひきこもり専任相談窓口をおいて補完活動している」

県警察本部生活環境部へは？

（たしか生活指導部）「サポート活動。年齢の近い大学生のアドバイスや指導を、ライフパル（大分市の消費者生活相談センター）にて行っている。少年課のサポーターも入っている。「数学がわからない」などの学習支援もしている。「居場所が無い」-働く楽しさを知ってもらう活動している。」

マツダ会長「見直しというよりは、（こういう）継続発展できるところは、継続発展させていきたいですね」

パブリックコメント取りまとめについては、事務局（私学振興・青少年課）に一任とのこと。

『基本計画』新規追加された項目についての説明

この後、『基本計画』新規追加された項目についての説明。

1.自己形成支援

項目1の名称変更で中身は変更なし。

トモナガ委員（男性）の質問。「一人一人のなんとら（聞き取れず）」部分について。

「一人でも行きて行けるためには、基礎基本の最低を（しっかり？聞き取れず）させんと、そもそも伸びようが無い。基礎基本をしっかり提言していかないと、社会に出たとたんどロップアウトになるのでは？」

課よりの返答

「計画内にはそのように盛り込みました」

イトウ委員よりの質問。「課題1.個性を生かし、自ら学び水から考える力のための、基礎基本」という表現があち、一方では「基礎的・基本的学力の定着を図る」とありますが、どちらが重いと言うか、優先されているのでしょうか。統一を図ったほうが良いのでは？

課よりの返答

「別個のものではないので、教育担当課と協議を重ねて文言をまた検討します」

マツダ会長

「教育関係各課の連携とっているとのことでしたが、本日出席いただいてないようですが。ぜひこういう所に（居て？いらして？聞き取れず）説明いただきたいものです」

課より『見て頂きたい所』の示唆。「青少年の社会的自立の促進について」推進項目をご覧いただきたい。

マツダ会長の『こども連絡所』の話。

NHKの番組が提言していた、寺子屋機能に触れる（ご希望らしい）。「今の分県の子ども連絡所はいくつですか？」

トモナガ委員「子ども連絡所は小学校PTA等がおねがいしてなってもらっている。うちの小学校だけで70ある」

トモナガ委員「（ステッカー）張ってあっても、入っていいと解っているけど、ピンポン押して入って良いのか？子ども側に躊躇いがある。」

課より「ポストコーンにステッカーを貼り、在宅時にはそれを表に出すという事業所もある。寺子屋的機能のある子ども連絡所は把握していない」

生活安全企画課「（連絡所は）22-23K(2万2千-3千)発足しているが、今は把握できていない。新学期に、通学路を確認してもらうようPTA,学校に働きかけ、（通学路沿いの）各社に営業活動と子どもの見守りを依頼しています」

マツダ会長「地域で一人一人に見守るという点を高く評価。地域の方々も健全育成については皆で遣ろうとしているのかな、と思っている。見守る人の数が増えているのかと（聞き取れず）」

警察の？課「322団体、2万7千人が安全パトロール隊として見守り活動をしている」

青色パトカーの件。

マツダ会長「青色パトカーが増えている。が、赤も青パトも同じような大通りを流している。青パトはむしろ自転車や僻地に行くべきではないのでしょうか？非行防止用なのですか？」

警察「数百台ある青パト、自治体や個人所有車もあるので活動実態未把握。地域パトロールは徒歩基本で、パトがどのような運用かは未把握。」

オオカジ委員（女性、別府市の自主パトロール隊の長もつとめる）「地域の登下校の挨拶、見守り、声かけ（切身魚注：犯罪的な意図ではない）していた。市や地域によって活動は違う。制服の色も違う。」

マツダ会長「色々な課が連携している、取り組みが発展的にしている。もしこれらが落ちていけば盛り込みポイント等に盛り込みたい」

課より「青パト、安全パトロール隊については冊子に盛り込んであります」

スクールサポーターの話。

県警「青少年指導のOB（退職者）、学外」

別府市「学校の中に居る支援員（教職免状保持者、スクールカウンセラー等）」

この2つは同一『スクールサポーター』と表記される。混乱が指摘された。

警察「警察OBによるものは全国名称。警察庁の指示で発足、当初2名雇用。H22-23も2名2名増員し、6名で県下を分割担当。」と、名称決定の歴史と正当性を主張。

委員より(お名前失念)「警察OBによるスクールサポーター、とか、別個のものと解るよう表現を工夫したほうが良い」

障害者就業支援の話。

（切身魚注：『しょうがい』だの『障害』だのといった言葉は用いません。枝葉末節に拘泥し、本質的な重要度の高い活動を邪魔する勢力には屈しません。Challengedという英語表現ならまだ良いですが、適訳語不明のため、当文書では、害悪という意味を含有しがちな『障害』ではなく、単なる差しさわりを意味する『障碍』の文字を用います。……と、こうやって言葉狩りへ言い訳するために、何文字余分な労力を使わされることでしょうか。本当に、本質的な重要度の高い活動の足引っ張りでしかありませんね）

・内情を知っている委員より。小規模作業所をNPOにしようという活動を通しての発言。

1.入所者が自立できる賃金を得られるようにしたい、とか、作っても販路が無いといったこれまでの例や、今後の具体的目標は？

障害者ではなく、障碍『児』担当課より返答。「工賃が低いというトラブルは認識している。平均以下の工賃のところにはアドバイザー派遣。企業的マインドに詳しい担当に、ビジネス的アドバイスを。一個一個の作業所では小さすぎる規模のため、複数作業所でまとまって受注したり。福祉の観点が強すぎて、継続可能なビジネスという、ビジネスライクな考えを嫌う職員に啓発を図っている。より能力のある人が伸びるようにしてますが、まだまだ工夫の余地アリと認識してます」

マツダ会長、保育士への研修について。

（発達障害者支援センターの講習は、保育士、幼稚園教諭、小学校教諭、中学校教諭、高校教諭、支援学校教諭誰もが受ける、という前提があります。以下、支援センターと略記します）

マツダ会長「誰が講師になるのか、それは誰が決めているんでしょうか？」

課より「発達障害者支援センターの講師は臨床心理士がやります。3年かけて支援専門員を育成。育成されたのは79名いる」

マツダ会長「保育所、幼稚園、小・中・高と発達課題やケアは違う。ひとくくりにして良いのか？発達が違うので、ニーズ似合った教員育成、研修をしては。」

課より「79名のうちには教員、看護師、医療関係者、公務員もいる。バックグラウンドとしてはさまざまあり、ここでの専門員として学んだことを、また持ち帰って発揮してもらっています」

マツダ会長「大分県にそういう教育（支援センターでの講師として教育）できる人はいるのか。事例に、保育士でこうした研修を受けた際、臨床心理士から『あなたのそういう声かけが子供の発達に悪影響』等言われ自信喪失。保育士としてやっていけないと訴える。研修を受けた人が、資格（支援専門員の資格）を錦の御旗にはしてはいけないし、まして不適切な遣り方を押し付けてはいけない」

課より「委託事業なので、講師の選任は委託先に一任。こういう事例あればフィードバックしていただきたい」

マツダ会長「研修を受ける人を『育てる』研修を希望します。保育士会にもフィードバックします」

定住外国人の文言の話。

大分県側「定住外国人のコミュニティやグループによる犯罪は把握していない。治安の乱れ等や組織犯罪といったものは無いようだ。国の計画に文言があるのでもりこみました」

Q.その人たちにはどういう支援するの？

A.国際政策として、厚生労働省事業はあるが、中間計画の見直しで入れるべきかどうかはまだ検討させていただきます

児童館の目標値等について（子どもの居場所づくり）

大分市の審議会委員（幼稚園の設置、廃止反対の運動をしている人）

「大分市は児童館作らないという施策。どっからこんな1100箇所以上という数字が？」

子育て支援課「児童館や放課後児童クラブ（小1-3を6時まで預かる）、のうち、後者も数字に加えて算定しました。自治体によって名称が異なる、運営方式や規模時間も自治体によって差がある」

大分市委員「公立幼稚園は閉鎖で、一時預かり所は沢山作られている。（子どもを）全部人に預けたら良いのか、家庭に置くのがいいのか。若い母親は『子どもを保育所に預けるもの』という意識まずありきで、『子どもを預けるには仕事探さなきゃ』という逆の発想している。」「自分の庫は自分で育てる」という考えをしっかりすべきでは！？」

課より「（一時預かりの定義や説明）市町村の運用方針に依拠します」

マツダ会長「公立保育所の施設を増やす、ではなく、一時預かり所のサービスが増えているということですね」

大分市委員「小学校に上がる前の子を『ただ一日見守る場所』という『一時預かりサービス』において良いのか。家庭のあり方を考えるとき、子育ては、『自分が働いたら他人に預ければいいのよ』という風潮を感じる。『近くにおじいちゃんおばあちゃんもいるのに、手を出せない』風潮、人と人とのつながりが薄くなっていくのが寂しい」

マツダ会長「子どもの育ちを第一にしてる視点が欠けている。国がどんどん施策を出しているが、（第一にすべきは）そこではなく。『男の子育て日本一』ではなく。三世代が参加して、『子育てマンゾク

日本一』にすればいい。厚生労働省の人たちは『男の子育て』と『女性のワークライフバランス』の2つを必ず盛り込んでくる。全て、国がこういってる、書いてます、ではなく、『大分県が作るとしたら、もっとうまい風にしよう』であっていいのでは？

子どもの最善の利益を考えた時、保護者『ニーズ』ではなく、保護者『育て』、保護者支援が大事でしょう。

・・・失礼しました。これは国に言うべきでしたが、大分県はこういう細かい条例を作って、地域社会ぐるみで子どもを見守っていますから、ぜひ頑張ってください」

基本目標1の『大人社会の再構築』

課より、基本目標1の『大人社会の再構築』

大人の規範意識については、「言葉は知ってても実行に移せない」現状。親が率先して挨拶、人と話ができる、コミュニケーションとれる、注意ができる人間関係の構築を目指すべき。現状、うまくいってない。

マツダ会長「こうやって目標書いてるけど、具体的に問題把握、計画たてて実行するのはどうなってるのでしょうか？と。今説明されましたように、うまくいってないんでしょう。言葉より、もっと本当に、次の世代の親（現時点のティーンエイジャー）を育てていかないと。」

会長より国東保健所での事例紹介。中学生の赤ちゃんとの触れ合い体験。「これからの親になる世代」育て、1回でなく何回も遣ってほしい。乳児健診に中学2-3年生が参加し、赤ちゃんを抱っこしたりする。小学生はままごと感覚で、高校生になるともう壁が高くなる。中学2-3年生が一番教育効果がある。

参考情報：市報より引用

国見町で毎年行われている“思春期保健福祉体験学習”の様子を紹介します♪

国見町では10年以上前から、国見中学校の3年生を対象に“思春期保健福祉体験学習”を行っています。今年度も、6月29日に国見保健福祉センターで思春期保健福祉体験学習を行いました。当日は、東九州短期大学の松田順子教授をお招きし、乳幼児の成長発達についての講演をしていただきました。また、生徒の皆さんには妊婦体験や赤ちゃんふれあい体験等も行ってもらいました。

<https://docs.google.com/viewer?url=http://web.city.kunisaki.oita.jp/mpsdata/web/1114/No58-9.pdf&embedded=true&chrome=true>

課より、基本目標4-1.2についての説明

「あくまで家庭や県民全員への心構えについて示してあるもの。具体的目標は3以降を見ていただきたい」

マツダ会長「ポイントは青少年なんですよ？県民全員で見ていきましょうってことでしょうか？ただ、今この審議委員会としては、学校行政部分が具体策なのか、と注目しています。（熱意をこめて）『視点は青少年』これは第一です」

事務局まとめ

「1ヶ月間パブリックコメント募集し、平成24年1月中に最終案協議します」

【個人的感想】 1.有害図書/興行の指定については触れずとも

1.有害図書/興行の指定については触れず

大阪の事例紹介（『[第3回大阪府青少年健全育成審議会第4部会の報告](#)』）にあったようなお話は、今回ありませんでした。また、大分県報（まだH23.10月版しかWeb公開してない）にあったような有害興行指定のお話もなし。

[10月－火曜日発行／2314号－10月18日の県報](#)では、3映画が有害興行に指定された、とあります。

『となりの人妻 熟れた匂い』、『団鬼六 奴隷船』、『美肌の湿り 牝臭で誘う』
どういう層のどういうニーズがあるのか、タイトルからしてわかりやすい映画です。私には御用の無いものですから、解りやすくてよろしい。

『隣のケータイ 音声認識言葉責め』

とか

『ダンロプッ 回る奴隷車輪（実在の団体とは一切性的な関係はありません）』

とか

『美肌水 × 皮膚細胞 浸潤してやんよ』

とかだと、無機物萌えとしては「卑猥に過ぎる。一体日本はどうなってしまうのか」と天を仰いで嘆息したくなりますものね。

『表現物規制』への反対は、創作物だけ目を光らせていればいいというものではありません。むしろ、教育全般やシャカイ全体に目を向けておく必要を感じます。でないと、実在しない不安でヒステリーになりがちな人々の暴走を止められないでしょう？

特に『貧困や不幸な事例に遭遇しやすい立場』の、NPOやNGOで指導的な立場にいる人たちの『善意と情熱に基いた、ただし傍目からは不適當な方向への激走』

を穏やかに方向修正してあげるのは、善意と情熱に基いた冷静な第三者のお役目。

おや？何故か、『NPOやNGOで指導的な立場にいる人たち』と『こういう審議会に招かれる人たち』と重なる部分が多く見受けられますね。偶然の一致って凄いですねえ！

有害図書指定云々もそうですが、関連する健全育成基本計画についてどのような議論がなされるのか。あるいはなされないのか。見守ってゆく(監視するとはいわずにおきましょう) 必要を感じます。

何故なら、「フィルタリング」が実効性の疑わしい、単なる「親の不安解消のための予算無駄遣い」と化している実情があります。なのに、それを条例に盛り込んだり、

ネットの危険子どもを守れ 県とPTA

http://www.oita-press.co.jp/localNews/2011_132054006402.html

関連する自blogポスト <http://nekomimi.staba.jp/blog/?p=1621>

というニュースのように、親の不安、不信を、少々の公費でケータイ与えて『払拭する』のは『適正な施策』でしょうか？

それらの施策によって『仕事の糧を得る』なら、『少数のオタクやマニアがどうなろうと知ったことか』という態度を取るのは、倫理的なことでしょうか？

私にはどうも、「それは違うんじゃないのか」という疑念が拭えません。

貴方はどう思われますか。「子の親ではない人間が何を言うか」と攻撃性をむき出す前に、「ひとりの人間を世に送り出すに、彼の育ちを適切に支援するとはどういう風にするべきか」をお考えください。

【個人的感想】 2. 文言のゲームについて

「文言（モンゴン）のゲーム」という比喩をTwitterで書きましたように、こういった審議会や官僚用語の世界というのは、

「どの言葉を一番上に持ってくるのか」

とか、

「整合性があるのか」

とかいった言葉遊びの世界でもあります。

もちろんこれには理由があります。条例や、地方自治の基本計画の文章は、法律と同程度の整合性をもった表現であるべきです。適当な言葉が見つからないからといって

「何人（ナンピト）たりとも***してはいけない」

などという強い表現を用いると、『じゃあ***の****はどうなのか』『では***を仕事にしてる人は犯罪者になるのか』といった、現実との不整合が噴出するに決まっていますもの。きちんとした用語の定義は、許容範囲内で必要とされるものです。

だけど"あまりにも"こういう『モンゴンのゲーム』が"過ぎます"と、聞いている側は、

「この連中は予算と時間と人員を何に使っているのか」

という怒りがわく人の意見に、同意したくなります。怒りそのものは、湧かないんですけどねえー。

ちょっとお話がわき道にそれますが、切身魚のようなブツディスト（仏教徒という表現はしません）つかまえて

「貴方は怒りを心の中に持っていますか？」

と尋ねるのは愚問でもんです。

「出てきたら即座に放り出して心のお掃除してます」

としかお答えしようがありませんもの。

本題に戻りましょう。わたくしが『文言のゲーム』と表現するのは、次のような場合です。

1. 「部署や団体の名誉、正当性」の優劣を、文言上で表現しようと画策する行い
2. 『その文言を使うこと』で、「自分の所属する部署、団体の功績」がポイント加算されるとでもいうような行い

2.の例としては日本ユニセフ協会等でしょう。曖昧な意味の『児童ポルノ』『子どもポルノ』という文言を公的な文書に盛り込むことに、非常に熱心です。『実在する子どもへの性的虐待を救済すること』より、文言の使用/不使用を重要視している模様です。ICPO等の文書には、より曖昧さの少ない『児童性虐待成果物』という用語がきちんとあるのに。

『Hikichinのなぜ児童性虐待成果物を禁止するのかについての発言(2011-02-11)』

』 <http://togetter.com/li/100006> より、（以下引用）

児童ポルノ・児童買春問題は、歴史的には（子どもの商業的性的搾取である）児童買春をなくし、子どもが性感染症にかかるなどの生死にかかわる被害をなくするのが主目的。主は「児童買春」であり、児童ポルノ規制は児童買春をなくするための手段である。手段が目的化してないだろうか。

（引用ここまで）

コメント欄にて、[takayan1964](#) さんのお寄せになった意見のように、

取り締まりの枠を広げれば広げるほど「組織に貢献した」。
文言を盛り込ませれば盛り込ませるほど、「組織の声望を高めた」。

そういった文言のゲームに、"あまりにも"執着が"過ぎ"る。
予算消化や時間つぶしのためにやっている。

そんな審議会の運用を防止するには、どうしたら良いとお思いになりますか？

わたくしは、「批判的だが冷静な傍聴者の存在」がとっても良い効果ではないかと思って、傍聴に赴いておりますよ。やるやら無いの効果不明なら、お休みの取れる方、是非一度お出かけになってみては如何でしょう。

もちろん、お休みが取れる場合に限ります。

勤務者の政治的興味関心を理由にした有給を許可しないような職場が大半ならば、日本の地方政治を歪めているのは、この労働環境です。

私とて、平成24年9月で今の嘱託の契約が切れたらさあどうしましょ、という不安定要素満載の身です。なので、この労働環境がどうあるべきか？は相応に憂慮しているのですよ。

【個人的感想】3.審議会委員のダブルスタンダード

「ああこういう人たちは自らの二重規範を意識せずにいるのであろう。私の生き様を責めるだろう」と、Tweetした理由についても少し触れましょう。
国策の中に盛り込まれている理想像は、ダブルスタンダードです。二重基準と申しましょうか。

例：『国際的人材の育成』を一方で盛り込み、もう一方で『定住外国人の（治安悪化を理由にあげた）支援』をもう一方で盛り込む。

例2：『女性のワーク・ライフバランス』や『男性の育児参加』を盛り込み、もう一方にあるべき『里親制度の拡充』『養子縁組制度の拡充』『同性間結婚』『三世代子育ての問題点指摘』を盛り込まない。

国際的人材って何でしょう？

私はTOEICスコア785点しかありませんが、文化の発展、交流ボランティアの場でこの技能をフルに用いております。自発的に、[Vocaloid Pilipinas](#)へオブザーバー参加したりとか、[PIAPRO](#)や[S-TRIBE](#)での活動がその好例でしょう。ボランティアの動機付けとして、同一地域在住であることより、自分の興味関心を共有できる友人かどうか、のほうが重要な要素だからです。

また、日本人であることを強要されるのは真っ平ゴメンです。

ある逸話をご紹介します。

クリスチャンの友人（日本人。洗礼受けて教区活動にも熱心な方です）が、年配の上司（日本人）と一緒に、外国からのお客様を、日本の仏教寺院にご案内した際のことです。寺院の日本的装飾や彫刻があまりに素晴らしいので、年配の上司さんはこう言ったそうです（うろ覚えですけど）。

「日本人ならこの光景には心震えるに決まっている。君もそう思うだろう」

と、『押し付けがましく』かつ『同意させる』ように。

この逸話を知ったとき、切身魚の心中には穏やかではないものが去来しました。

「『外見が同じだから』と『安易に』、信教の同一や美意識の同一を強要するな！」

と。

コミュニケーションコストは摩擦コスト。『外見だけ』で『同じである』という前提が『安易に』共有できない。そういうコミュニケーションには、コストがかかります。時間、手間、お金のコストが。

貴方が個人的にそれを好しとしようがしまいが、コミュニケーションコストは『かかるもの』、そういう世の中なのです。

摩擦の発生と解決、事前予防。

そうしたことを『あって当然のコスト』として対人関係に組み込む。

それが『国際的人材である』ということだとみなしております。『国際的人材』であればあるほど、変わろうとしないで「同一であること」を強要する日本国内は、住みづらいので逃げ出したくなる場所なのではないでしょうか。LGBTフォビアや表現物規制（ボーイズラブを読むのも書くのも、大人でさえ）が実刑/実リンチに直結している国が、これほど多くなかったら（＝今より少なかったら）、私も海外移住を本格検討しているところです。これ以上、日本が住みづらい&生きづらい国になってほしくありませんね。

『ワーク・ライフバランス』を考えればまじめに考える人ほど、今の労働環境はおかしいと思うでしょう。幸い、私が嘱託勤務する職場は超グッド、ベリギューな場所ですよ、と申し沿えて***（任意の文字列）につとめておきますw

こういった二重基準を、審議委員会の委員発言からも見て取れます。

「一定の教育技術がある教諭のもと、教育指導案に基いて幼児が育成される幼稚園を廃止してはいけない」と言う部分は、うなずけるものがあります。でも、

「一時預かりサービスに、母親達が子どもを預けるのをヨシとする/当然としている風がある」と、批判するのは、どうでしょう？

「保育園に子どもを預けるために、母親達が仕事を探す」ことを批判するのは、どうでしょう？

「おじいちゃんおばあちゃんが子育てに参加できない」ことを批判するのは、どうでしょう？

現状に問題点がある。その問題点情報は共有できます。

でも、解決策として私が提案したいことは、けっこう異なります。

何故なら、

- ・一時預かりサービスを利用せざるを得ない母親達を、非難しても無意味だと思う
- ・『一定の教育技術がある教諭のもと、教育指導案に基いて幼児が育成される』教育機会の均等と拡充こそが提案すべき解決策。

そこに『幼稚園』という形態がニーズ&運用に見合わないなら、他の『子ども園（保育園と合体した小学校入学前までの子どもをみる施設）』規制緩和、運用等を提案しては？と思います。どんな形態であれ、教育にはもっと予算が必要に決まっています。人数が減ったからって、お金が要らなくなるわけではありません。むしろもっとコストがかかるのですから、適切運用するべきです、とも。

- ・保育園に子どもを預けるのが第一目的で、母親達が仕事を探すのは何がいけないのでしょうか？

「母親は子どもを第一に考え、家庭内に子どもをおいて養育すべき」ですか？

「母親である人が、仕事に出る理由は、自己実現や社会貢献のためであるべきで、子どもを他人に見てもらおう育児負担軽減が第一理由であってはならない。＝そんな理由は不快だ」

という、『自分達の世代と違う価値観』を不快に思っている発言ではないでしょうか。

- ・おじいちゃんおばあちゃんが子育てに参加することのメリットは、デメリットを上回りますか？

祖母祖父世代の人々は、子どもの教育に本当に良い影響を及ぼすでしょうか。メリットとデメリットを勘案しましょうね。

例をだしましょう。（当時）68歳だった私の祖母は、孫が結婚の相手に考えている人の姓が『木村』だった、というだけで難色を示しました。理由は

「木村というのは肉屋の姓である。つまり、被差別部落の人間ではないのか」

というもの。

「そういう差別をしてはいけない」

と孫（複数）及び両親が説いて聞かせても、納得はしませんでした。一定年齢以上で、可塑性の低くなった人間の価値観は強固で、容易には変化しません。

「単に人手が足りないから＝同居祖父・祖母を人手に活用する」というメリットを理由に、一定年齢以上で、可塑性の低い人間を子育てに参加させ、『教育的デメリット』をもたらすことについてどんな議論があるのでしょうか？

「昔からそういう風に育ててきた（イメージの域を出ない）」＝『自分達の世代が信じ込んでいる理想の子育て像』を、今の社会でいきている親たちや子ども達に「そうせよ」と。メリットとデメリットを『勘案せずに』押し付けて良いものでしょうか。

ゼロリスク目指すと世の中全体が息苦しくなって、全員がストレスに潰されるようになる。

ちょっとでもはみ出した物言いや行動から血祭りの生贄になる恐怖で、日々生きざるを得ないんじゃないでしょうか。

委員個人に思うところは一切ありません。でも、私の考える解決策は、委員とは違うところにあります。

審議会という場での委員発言を、私たち皆が無意識に持っている『ダブルスタンダード』自覚の契機としたいものです。

【個人的感想】4.案の定持ってきた、非行少年の再犯率

これについては、以下のTogetterをご紹介します。

青少年は非実在ヤクザを見て三次ヤクザに憧れるか

<http://togetter.com/li/11571>

「社会全体で子どもを育てる」江川紹子さんの連続ツイート

<http://togetter.com/li/75420>

治安悪化キャンペーンの行き着く先とは？「厳罰化と人権－刑務所は福祉の最後の砦」

<http://togetter.com/li/135376>

momo2000 さんのつぶやき「救済」と「再犯」について

<http://togetter.com/li/96520>

メイザーズぬまきち氏講演会/規制関連

<http://togetter.com/li/26655>

正確性には欠けるので、信用しすぎないように、という釘刺しはしておきますよ。

私のこの文書についても、当然『真摯に検証し、それでもなお信じようと思うことを信じる』ように。

そして、多くの間違っただけのことをしている人が『同様の検証と信用のサイクル』に基いていることに、思いを馳せてください。

『正しいこと』、なんてわかりやすいだけの表現はいたしますまい。

『相対的に適切であること』。

その難しさを知ってなお、本当に『よい』ことを為すにはどうしたらいいか、と、どうかお考えください。無関心が政治を腐らせます。

どんな青雲の志を持った人でも、周囲の人間が狂信者ばかりでは、「あっ」という間に曇天丸・・・・になっちゃうと思うのですよ。

おまけ：第二回にいけなかった切身魚どん

11/4の第二回青少年健全育成審議会。RSSで捕捉したのが、開催の3営業日前。いくら平時はまったりした職場といえど、そんな急にお休み取れませんかな！というわけで、審議会に傍聴にいけない。後ろめたい気分一杯です。

そこで：2時間分の時給換算したマネーを[实在児童の人権擁護基金](#)に進呈しようかと思えます。

送りつけ先は当然、実在する人類の、継続的で自立できるような暮らしっぷりへの支援団体。一過性だったり、ただの自己満足だったりするところとか、会計監査報告書が信用ならない（素人の私の目にすらですよ？）所は、除外。

身内ネタですが、

「切身魚君のHNが思い出せなかったので、『お徳用刺身パックみたいな名前の人』って言っちゃったよ、すまん！HAHAHA」

を活用しました。

贈りつけた先は[实在児童の人権擁護基金のブログ](#)です。<http://jitsuzai-jinken.cocolog-nifty.com/blog/2010/12/post-9a6a.html>に、『お徳用刺身パックみたいな名前の人 金額非公表希望』と公開していただきました。誠に有難うございます。夏目漱石の書かれた紙のお金二枚なので、金額非公開を希望しました。

でも、「このネタがおもしろー」と思ったので、次もまたやーろうっと♪ お金は楽しく使わなくっちゃあ、いけませんや。

「たった二千円でも、この二千円は未来を救うんだぜ？」